

次世代ロボットビジネスフォーラム 2010

主催：ロボットビジネス推進協議会

ロボットビジネス推進協議会では、次世代ロボットのビジネス創出に向けた社会環境整備を産学連携のもとで行っていますが、本協議会の年次活動の一環として「次世代ロボットビジネスフォーラム」を来る11月11日(木)に下記の要領で実施します。

本フォーラムでは、基調講演としてセラピー用ロボットの開発・実用化とともに、国内外でその普及に奔走されている独立行政法人 産業技術総合研究所の柴田崇徳主任研究員から、具体的体験と生活支援機器のあるべき姿について語って頂きます。

また、事例発表として、ソフトウェアプラットフォームである RT ミドルウェアの適用事例では、(独)産業総合技術研究所、(株)前川製作所、富士重工業(株)の各機関より発表頂くほか、サービスロボット分野に注力しているパナソニック(株)での取組内容について紹介して頂きます。

1. 開催日：平成22年11月11日(木) 13:00~17:00

2. 場 所：東京ビッグサイト・会議棟7階「703号室」

http://www.bigsight.jp/download/public/access_map_j_color.pdf

(交通)

りんかい線：「国際展示場」駅(← 大崎駅、又は新木場駅)下車 徒歩約7分

ゆりかもめ：「国際展示場正門」(← 新橋駅、又は豊洲駅)駅下車 徒歩約3分

都営バス：「東京ビッグサイト」(← 東京駅八重洲口、門前仲町、浜松町駅)

3. 主 催：ロボットビジネス推進協議会

4. 協 賛：(社)日本ロボット工業会

5. 参加費：無料

6. 定 員：100名



次世代ロボットビジネスフォーラム プログラム

進行役： ロボットビジネス推進協議会 事業企画 WG 主査 村上 弘記 氏

【開会挨拶】

13:00～13:05 ロボットビジネス推進協議会 事務局長 富士原 寛

【基調講演】

13:05～13:55 「セラピー用ロボット・パロによるライフ・イノベーション」

(独)産業技術総合研究所 知能システム研究部門

主任研究員 柴田 崇徳 氏

内容：認知機能に関わる高齢者・障がい者の自立支援、介護者の負担の大幅な軽減等を目的に、セラピー用ロボット・パロの研究開発を行い、国内外で実用化（現在約1,700 体）し、社会システムへの組み込みを進めている。医療福祉施設での臨床・実証実験、世界7カ国でのアンケート調査、オーナーへのアンケート調査、デンマークでのパロ免許制度の構築と欧州への水平展開、アメリカFDAによるパロの医療機器の認定、等を事例に、世界市場に向けた生活支援機器のユーザー・ドリブン・イノベーションの重要性、課題、展望を述べる。

【事例発表】

13:55～14:25 「ヒューマノイドロボット HRP-4 における OpenRTM-aist 応用事例」

(独)産業技術総合研究所 知能システム研究部門

主任研究員 金広 文男 氏

内容：川田工業と産業技術総合研究所は働く人間型ロボット研究開発用プラットフォーム HRP-4 を共同で開発し、川田工業が9月より受注を開始した。その動作制御システムにはミドルウェアとして OpenRTM-aist が採用されており、国内外のソフトウェア資産を活用した効率的な開発が可能となっている。本講演ではそのシステムの詳細およびこれを用いて行った HRP-4 のデモンストレーションを紹介する。

14:25～14:55 「イチゴ収穫ロボットへのRTミドルウェア適用」

(株)前川製作所 技術研究所中長期開発グループ

チームリーダー 山下 智輝 氏

内容：生研センター「次世代機械等緊急開発事業」で2006年度から生研センターと共同で「いちご収穫ロボット」の開発を行っているが、2009年度に開発したM型3号機よりRTミドルウェア OpenRTM-aist を利用して制御ソフトウェアを開発している。本講演ではその概要および実際に利用して得られたメリット、問題点などについて述べる。

14:55～15:10 休憩

15:10～15:40 「RTミドルウェアの利用事例」

富士重工業(株) エコテクノロジーカンパニー

クリーンロボットプロジェクト上席技師

埼玉工業大学 教授

青山 元 氏

内容:富士重工業では、清掃ロボット・特殊搬送ロボット等の事業化を行っている。これらのロボットに、RTミドルウェアを利用した制御ソフトの開発を進めている。本講演では清掃ロボット等への利用事例と、その活用のために不可欠となる統合化システムについて紹介する。

15:40～16:10 「パナソニックのロボット事業化への取組」

パナソニック(株) ロボット事業推進センター リーダ 北野 幸彦氏

内容:サービスロボットの商品化・事業化にはさまざまなハードルがあるが、パナソニックでは、ロボット技術が今後の社会的課題を乗り越える重要な一手段と考え、これらのハードルを越えるべく挑戦している。この取組みを、試行錯誤の過程も含めて紹介する。

16:10～16:50 ビジ協活動報告

ロボットビジネス推進協議会

内容:当協議会の活動内容及び、平成22年事業の中間報告を行う。

5. 申込先:下記の申込書にご記入の上、E-mailでお申込願います。

soumu@jara.jp

6. お問い合わせ:ロボットビジネス推進協議会 事務局

担当:矢内、波岡 Tel:03-3434-2919

***** 切らずに本紙をそのままお送り下さい *****

ロボットビジネス推進協議会 行

次世代ロボットビジネスフォーラム 2010 参加申込書

(フリガナ) 機関名			
参加者	氏名	所属・役職	E-mail
	1.		
	2.		
	3.		

* 個人情報の取扱いについて:当協議会では個人情報保護に努めており、参加申込の個人情報は責任を持って管理すると共に、今後、当協議会の催事ご案内以外には使用しません。